

平成26年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

県立 郡山高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成26年7月19日～8月1日までの14日間、1学年英語科38名がオーストラリアのブリスベン郊外にホームステイしながら、カンタベリーカレッジと交流した。

実施概要について

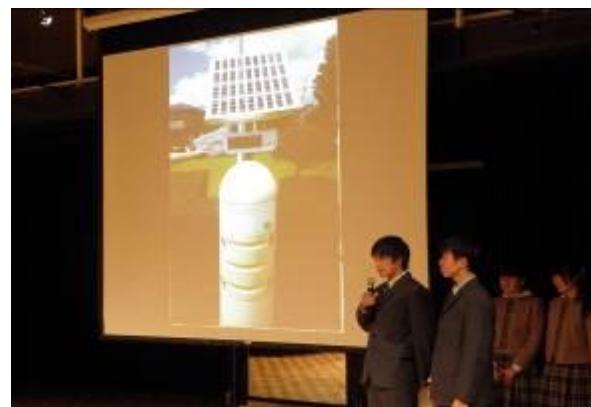
今回の研修では、ホストスクールでの授業参加を主な活動として、充実した語学研修とすることができた。平日は午前と午後に分けて2クラス編成で英語のレッスンを受けたり、ホストスクール生徒と一緒に交流授業に参加する等の活動を行った。

また、現地の人々と交流を深めたり、施設見学を通してオーストラリアの文化や習慣に触れる機会も多く得ることができた。ブリスベン市内での施設見学では特にアボリジニの文化や歴史について学び、それを生かしてブーメラン作りなどの活動を行った。またゴールドコースト方面をエクスカーションとして訪れ、豊かな自然環境と日本とは異なる特殊な生態系に触れる体験学習をすることができた。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

1 福島の現状発信について

ホストスクール内の学年集会において、日本や福島の紹介を交えながら、東日本大震災とその後の復興状況に関するプレゼンテーションを行った。代表生徒8名がプロジェクターなどを使用して、準備した写真や資料をもとにスピーチをした。福島の自然や普段の学校生活の様子を紹介しながら、震災後の被害の様子、また短期間で復旧した道路や放射線の線量計の資料を用いて、被災した厳しい現状に対しても少しずつ復興が進んでいることを話した。また様々な国際的支援に対する感謝の思いも生徒なりの言葉で伝えることができた。ホストスクール生徒や学校関係者等真剣に耳を傾けて下さり、その後学校内や各ステイ先で、生徒に温かい言葉をかけて下さった方々もいた。



2 現地におけるエネルギー学習について

現地におけるエネルギー学習については、授業の中でオーストラリアにおけるエネルギー事情に関する授業を受けた。水力発電や太陽光発電、地熱発電などの発電方法についての説明を生徒は興味深く聞き、日本の現状について考える良い機会となった。また、家庭でも使われている、生ゴミを堆肥化して再利用する装置を作る体験学習も行われた。オーストラリアでは、再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの研究が進められているのと同時に、水など限りある資源の有効活用とゴミの減量化を考えてエコ活動が広く浸透してきていること等を知ることができた。



実施後の成果について

今回の研修は生徒にとって、積極的なコミュニケーションを図るために必要なことや、異文化理解を深めることの大切さを考える好機となった。英語で発信することの難しさを多くの生徒が痛感したこと、これからの学習意欲につながっていくと思われる。

今後はより一層事前学習に時間をかけて、生徒の英語力向上を図るとともに研修先の情報を多く持つて行くことで、より研修を充実させることができるよう工夫していきたい。

